

オティックスグループ  
環境報告書

Environmental Report 2016

2016



OTICS

## ごあいさつ

オティックスグループは、動弁系部品を中心とする自動車用エンジン部品を生産しております。そして、これらの部品の機能、特性が、自動車の環境性能向上に寄与していることを十分認識し、日々研鑽を積んでおります。

近年私たちが経験している異常気象は、多くの環境問題が複雑に絡み合って起こっています。大気、温度、水等には国境はありません。グローバルにつながり、結びついているのです。だからこそ、私たちは自分の周りから見直し、改善し、一歩一歩確実に前進することが求められているのです。

当社は以前より継続的に「環境取り組み3ヵ年プラン」を展開してまいりました。2015年度は、第5次の「3ヵ年プラン」の最終年度でした。環境保全の三本柱である「汚染の予防」、「省エネルギー・温暖化防止」、「省資源・リサイクル」とも第5次の目標を達成することができました。そして、今年度から新たに第6次の「3ヵ年プラン」を展開し、スタートいたしました。

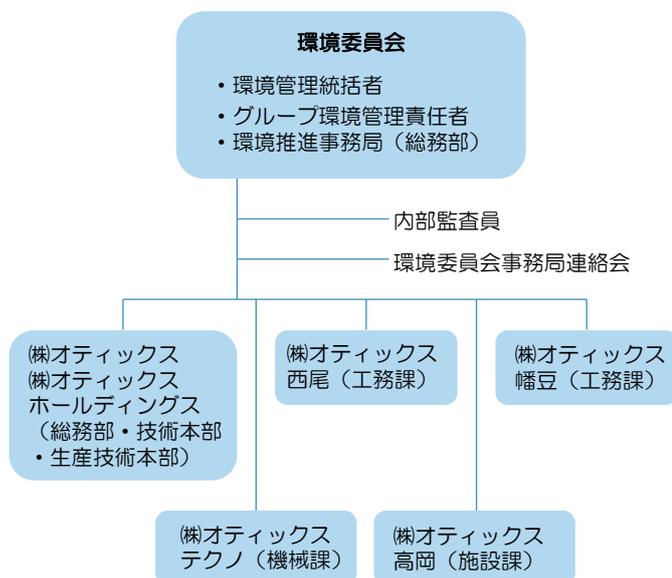
当社はこれらの改善活動をご理解いただくためにも、環境コミュニケーションをより重視してまいります。

引き続きご理解とご鞭撻をお願いいたします。

2016年4月 代表取締役会長 高須 正孝

## グループガバナンス

当社は、グループ全体で環境活動および社会貢献活動を展開しています。



## 社是・経営理念

### I. 社是

『和と努力』 Harmony & Effort

- 顧客→顧客との和／品質への努力
- 技術→技術と人間の和／技術革新への努力
- 社会貢献→地域社会との和／企業文化創造への努力
- ヤングスピリット→伝統と革新の和／各自の創意工夫の努力

### II. 経営理念

『和と努力』を基とし、常に創意工夫をもって、品質の向上、コストの低減に努め、会社の繁栄と社員の幸福を図り、社会に貢献する。

## 認証取得

当社は全グループ会社で下記の認証・登録を取得しています。

認証・登録	認証・登録日	認証・登録番号
ISO9001	1998年3月登録	JQA-2191
ISO14001	2001年5月登録	JQA-4812
ISO/TS16949	2006年6月登録	JQA-AU0126

### ●環境委員会

3ヵ月に1度、環境管理統括者、グループおよび各社環境管理責任者、環境委員会事務局連絡会メンバーが環境取り組み3ヵ年プランの推進および環境マネジメントシステムの運用状況の確認を行います。また、環境関連法規制、ISO14001改訂に伴う課題の対策などを行います。

### ●環境委員会事務局連絡会

毎月、環境推進事務局、各社担当課メンバーにて環境委員会の協議内容の進捗確認および省エネルギー委員会の報告、情報共有を行います。

現場への展開は、各社担当課に選任された省エネルギー委員会が行っています。

コンプライアンス管理として、各社で環境管理責任者に任命された法定管理者、法定責任者を置き、法定で定める役割、責任を果たすための権限を与えています。

## 環境方針

オティックスグループ（以下当社）は、かけがえのない自然の大切さを認識し、地球環境の改善が事業活動の最重要課題の一つであると位置づけています。

当社はエンジン動弁系部品の専門メーカーとして精密機能部品を生産していますが、その生産活動、製品が環境に深く関わっていることを踏まえ、地域環境のみならず地球環境保全のために環境負荷低減を積極的に展開します。そのため、環境マネジメントシステムを構築し、全従業員参加のもと継続的な改善及び汚染の予防を推進します。

1. 当社に適用される環境側面に関連する法律・協定・ガイドライン・業界規範等の要求事項を遵守し、並びに生物多様性及び生態系の保護を含む活動で地域との環境調和をはかります。
2. 当社は環境負荷を低減するため環境目的及び目標を設定すると共に、全従業員一丸となって継続的に改善を推進します。
3. 当社で働く全従業員、又は当社のために働く全ての人に本方針を周知させるため、教育・啓蒙活動を行います。
4. 本方針は文書化し、要求があれば一般の人にも開示します。

改定日：2016年7月1日  
株式会社オティックス  
代表取締役会長 高須正孝

## 環境保全の三本柱

当社はエンジン動弁系部品専門メーカーとして、全員で循環型社会の構築を目指します。環境取り組みは2016年2月に第6次3カ年プランを立て、右記の活動を行っています。

### 1. 環境コミュニケーションの推進

地域とともに環境活動に取り組みます  
地域交流、環境情報の公開、生物多様性に全力で取り組みます。

### 2. CO<sub>2</sub>排出量の低減

生産に対し前年度に比べ1%削減を目指します  
製造設備の省エネルギー対策や生産性を向上させることで実現します。

### 3. 産業廃棄物の低減

生産に対し前年度に比べ3%削減を目指します  
最終的に埋め立てられる廃棄物を限りなくゼロにしていきます。

## 製品開発での環境配慮

製品の粗材（そざい）、生産、使用、回収・再生を考えた開発に取り組んでいます。

### ●粗材（回収・再生）

環境になるべく負担のかからない、人や環境に優しい材料の使用を目指します。関連する部署と協力し、使用する材料に汚染物質が含まれていないか確認しています。

### ●製造

使用するエネルギーを減らし廃棄物をなるべく出さない設計を目指します。会社全体で製品の設計内容を確認しています。

### ●使用

部品を軽くしたり、摩擦力を小さくしたり、自動車が少ないガソリンでたくさん走れるような部品の設計を目指します。

## 生産工程設計の環境配慮

製品の品質、生産量、コストを満足させる生産工程の設計を行っています。また、使用するエネルギーを少なくするなど、環境に配慮した設備を導入しています。

### 1. エネルギー使用量を減らした設備づくり

- ①生産設備をスリム化（小型化）する
- ②エネルギー消費の少ない機器を導入する
- ③複数の工程を同時に加工する「複合設備」を導入し、設備の台数を減らす
- ④電気使用量の大きいエアブロー（空気の吹きつけ）を減らす

### 2. 環境に配慮した設備づくり

- ①新しい生産設備を導入する際に使われなくなった設備は改造して利用する
- ②近隣の住民、従業員の健康や快適性に配慮した騒音の少ない設備を導入する



## 2013年度 環境目標と実績

2013年度は、2013年度に立てられた第5次3ヵ年プランの初年度でした。  
2016年立てられた第6次3ヵ年プランとは一部項目が異なります。

2013年度目標	結果	評価
<b>1. 汚染の予防</b>		
公害につながる汚染を発生させません	発生はありませんでした	●
自主基準を超える汚染を発生させません	水質3件（高岡）、騒音1件（西尾）	×
法令を守ります	改正された法令を確認し、守りました	●
取引企業の要求に応えます（グリーン調達対応）	達成しました	○
<b>2. CO<sub>2</sub>排出量の低減</b>		
CO <sub>2</sub> 排出量を生産に対し2012年に比べ1%削減します	4.1%削減しました	●
<b>3. 産業廃棄物の低減</b>		
産業廃棄物を生産に対し2012年度に比べ3%削減します	21.6%削減しました	○
産業廃棄物の処分量を2000年度に比べ68%削減します	25%削減しました。 再利用先の開拓を推進しましたが未達となりました。機器の導入、分別の徹底を図ります。	×
生産工程から出た廃棄物を85%以上リサイクルします	79%リサイクルしました。 再利用先の開拓を推進しました。今後もリサイクル機器の導入、分別の徹底を図ります。	○
環境に負荷を与える物質を管理します また、第一種指定化学物質の使用量を10%削減します	3%増加しました。 代替品に切り替えを推進しましたが未達となりました。代替品の研究開発を図ります。	×

評価：法定項目は達成●、未達×、努力義務項目は達成率で ○80%以上 △50～79% ×59%未満



## マテリアルバランス

当社は、グループ全体で環境取り組みを進めるため、全社目標として環境取り組みプランを立て、グループ全体で数字を管理しています。  
ここでは2013年度グループ全体で使われた資源の量と、製造後に排出される物の量をご紹介します。

Input		Output	
●エネルギー		●CO <sub>2</sub>	40,000t
電気	51,000MWh	●排水	110,000t
LPガス	380t	●産業廃棄物	
LNGガス	2,700千m <sup>3</sup>	産業廃棄物排出量	1,000t
重油	610kℓ	再利用（リサイクル）量	3,800t
軽油	0kℓ		
●水	110,000t		
●化学物質	360.00t		



## 2014年度 環境目標と実績

2014年度は、2013年度に立てられた第5次3ヵ年プランの中間年度でした。  
2016年立てられた第6次3ヵ年プランとは一部項目が異なります。

2014年度目標	結果	評価
<b>1. 汚染の予防</b>		
公害につながる汚染を発生させません	発生はありませんでした	●
自主基準を超える汚染を発生させません	水質1件（高岡）、水質・騒音3件（西尾）	×
法令を守ります	改正された法令を確認し、守りました	●
取引企業の要求に応えます（グリーン調達対応）	達成しました	○
<b>2. CO<sub>2</sub>排出量の低減</b>		
CO <sub>2</sub> 排出量を生産に対し2013年に比べ1%削減します	2.5%増加しました	×
<b>3. 産業廃棄物の低減</b>		
産業廃棄物を生産に対し2013年度に比べ3%削減します	7.1%削減しました	○
産業廃棄物の処分量を2000年度に比べ68%削減します	38%削減しました。 再利用先の開拓を推進しましたが未達となりました。機器の導入、分別の徹底を図ります。	△
生産工程から出た廃棄物を85%以上リサイクルします	82%リサイクルしました。 さらに再利用先の開拓を推進します。リサイクル機器の導入、分別の徹底を図ります。	○
環境に負荷を与える物質を管理します また、第一種指定化学物質の使用量を10%削減します	6%削減しました。 代替品に切り替えを推進しましたが未達となりました。代替品の研究開発を図ります。	△

評価：法定項目は達成●、未達×、努力義務項目は達成率で ○80%以上 △50～79% ×59%未満



## マテリアルバランス

当社は、グループ全体で環境取り組みを進めるため、全社目標として環境取り組みプランを立て、グループ全体で数字を管理しています。  
ここでは2014年度グループ全体で使われた資源の量と、製造後に排出される物の量をご紹介します。

Input		Output	
●エネルギー		●CO <sub>2</sub>	32,000t
電気	50,000MWh	●排水	93,000t
LPガス	350t	●産業廃棄物	
LNGガス	2,700千m <sup>3</sup>	産業廃棄物排出量	900t
重油	550kℓ	再利用（リサイクル）量	4,000t
軽油	0kℓ		
●水	100,000t		
●化学物質	9.20t		

## 2015年度 環境目標と実績

2015年度は、2013年度に立てられた第5次3ヵ年プランの最終年度でした。  
2016年立てられた第6次3ヵ年プランとは一部項目が異なります。

2015年度目標	結果	評価
<b>1. 汚染の予防</b>		
公害につながる汚染を発生させません	発生はありませんでした	●
自主基準を超える汚染を発生させません	発生はありませんでした	●
法令を守ります	改正された法令を確認し、守りました	●
取引企業の要求に応えます（グリーン調達対応）	達成しました	○
<b>2. CO<sub>2</sub>排出量の低減</b>		
CO <sub>2</sub> 排出量を生産に対し2014年に比べ1%削減します	8.1%削減しました	●
<b>3. 産業廃棄物の低減</b>		
産業廃棄物を生産に対し2014年度に比べ3%削減します	5.7%削減しました	○
産業廃棄物の処分量を2000年度に比べ68%削減します	40%削減しました。 再利用先の開拓を推進しましたが未達となりました。機器の導入、分別の徹底を図ります。	△
生産工程から出た廃棄物を85%以上リサイクルします	81%リサイクルしました。 さらに再利用先の開拓を推進します。リサイクル機器の導入、分別の徹底を図ります。	○
環境に負荷を与える物質を管理します また、第一種指定化学物質の使用量を10%削減します	7%削減しました。 代替品に切り替えを推進しましたが未達となりました。代替品の研究開発を図ります。	△

評価: 法定項目は達成●、未達×、努力義務項目は達成率で ○80%以上 △50~79% ×59%未満

## マテリアルバランス

当社は、グループ全体で環境取り組みを進めるため、全社目標として環境取り組みプランを立て、グループ全体で数字を管理しています。  
ここでは2015年度グループ全体で使われた資源の量と、製造後に排出される物の量をご紹介します。

Input		Output	
●エネルギー		●CO <sub>2</sub>	31,000t
電気	52,000MWh	●排水	89,000t
LPガス	330 t	●産業廃棄物	
LNGガス	2,700千m <sup>3</sup>	産業廃棄物排出量	1,100t
重油	470kℓ	再利用（リサイクル）量	4,500t
軽油	0kℓ		
●水	96,000t		
●化学物質	8,50t		

## CO2排出量低減の取り組み

2015年度CO2低減活動の取り組みのひとつとして、寺津工場のライン照明をLEDに変更しました。

2015年の2月～3月に機種選定を行い、4～8月に各ライン毎に設置、効果を9月～10月に測定しました。その結果、従来の蛍光灯では月あたりの照明電力量は4,374kWhありましたが、LEDでは2,449kWhとなり、削減量にして1,925kWh、44%減の削減効果が上がりました。

今後は、新設ラインの立ち上げやライン移設等で照明を取りつける際には今回選定した機種を標準とし、西尾地区にある3工場全てでLED化を進めていきます。

また、他の地域の工場でも順次計画し、展開していきます。



ライン照明をLEDに変更

## 生物多様性の取り組み

2015年11月7日に、晴天の秋空の下、従業員、その家族、地域の小学生、協力会社の方約1200名の参加で当社技術本館のまわりに作られたOTICSの森エリアに今回の植樹にあたってご指導いただいた㈱三五さんのスタッフを招きぎやかに約8000本のこの地域固有種の苗木を植えました、日ごろ土いじりとは疎遠の方もグループで協力しあい、楽しいひと時を過ごしました、植樹を終えた方はお礼の食事をいただきました、またアンケートでも次の機会があれば参加したいとの反応が多く寄せられ、今回の目的のひとつとして、地域コミュニケーションを高め、地域貢献として継続していく予定です。植樹後3年くらいは除草などの手入れが必要とのことですが、そのあとは自力で成長するようです、緑を増やし、失われた自然の再生に参加することで、未来の子供たちへの贈り物にしていきます。

## 汚染を防ぐ取り組み

平坂工場ではプレス工場での敷地境界線騒音基準値は70dB（デシベル）ですが、2014年測定では74dBと基準値をオーバーしていました。発生源調査でプレス端材がコンベアで運ばれ、回収箱に落下する際にシュートと衝突する音が大きいと判明し、シュート材質を樹脂製に変更し65dBに下げることができました。

2015年度はグループ全体で騒音を含め苦情0件を達成しました。今後も弛まず汚染の防止、騒音の配慮等に取り組んでいきます。

## 産業廃棄物低減の取り組み

2015年度は幡豆工場では研磨機フィルターの水分除去に取り組みました。研磨機から排出された汚泥は、フィルターによってろ過されますが、まだ水分が残っている状態でした。従来はそのまま廃棄していましたが、今年度はフィルターを絞り、工場汚泥を切粉と研磨材に分別、更にそこから油分と水分を除去することで、廃棄する量を減らしました。結果、1年あたり1トンの産業廃棄物発生量の削減を行うことができました。今後は脱水機の導入や分別の仕組みづくりなど、効果向上に努めていきます。



植樹の様子



植え終えた完成写真



## お客様との関わり

当社は、自動車業界およびお客様からの要求事項にお応えします。

### (社) 日本自動車部品工業会 第7次「環境自主行動計画」(2013年5月22日改正)

(社) 日本自動車部品工業会では、環境問題への対応を重点対策としてとらえ、地球にやさしい環境作りを推進するために環境自主行動計画を定めています。

#### 1.CO<sub>2</sub> 排出量

2020年までに13%低減(2007年度比)

→2007年度比23%低減し、目標を達成しました。

当社では2015年度に工場照明のLED化などを実施し、着実なCO<sub>2</sub>排出量低減を実現しました。

#### 2.産業廃棄物量

2015年度までに生産工程から発生する廃棄物の最終処分量を68%削減(2000年比)、および再資源化率85%以上

→最終処分量60%削減に留まり目標は達成されませんでした。

した。オティックス高岡では研磨粉を圧縮シリサイクル品として売却していましたが、品質問題で産廃扱いとなりました。成分を調整し、2016年1月から再度売却しています。

#### 3.揮発性有機化合物排出量(VOC)

2015年度までにVOC排出量を30%削減(2000年度比)。有害大気汚染3物質(ジクロロメタン、トリクロロエチレン、テトラクロロエチレン)は95%削減(2000年度比)

→現在対象物質は全廃しました。

### トヨタ自動車(株) TOYOTAグリーン調達ガイドライン

トヨタ自動車(株)はサプライヤー企業との連携を強め、真の持続可能な社会の実現に向けチャレンジするため、グリーン調達ガイドラインを発行しています。当社では、ガイドラインの要求事項に対応しています。



## 仕入先様との関わり

コンプライアンス、環境保全のために仕入先様を訪問し現場環境の確認を行っています。

確認項目は以下のとおりです。

- 油保管状況：水溶性油保管状況、油性油保管状況
- 薬品保管状況：排水薬品、工程薬品(フラックス剤・硫酸など)
- 切粉捨て場状況：リサイクル状況、保管状況(流出の有無)
- 排水分離状況：工場内処理の有無
- 騒音・振動に関する苦情の確認：境界敷地近隣の状況(民家の有無、騒音発生設備の有無)
- SOC4(鉛、カドミウム、水銀、6価クロム)の対応状況：根拠書類の有無、分析シートの請求と補充
- 溶剤(塗料など)の管理状況：VOC、規制物質の有無など

●環境改善：ISO14001の取得状況、エネルギーの削減状況、環境月間における取り組み

●その他：

- ・太陽光発電50kW設置状況、暖房18℃設定での重油、灯油の使用量低減の取り組み
- ・3カ年目標の策定推進(不良低減、ミスト低減、工場美化(緑化)実施)
- ・高周波焼き入れ設備の有無と届出の有無

訪問時には観察事項および指導事項を記録に残し、指導事項に関しては是正処置の回答をいただき、環境取り組みの向上をはかっています。

## 従業員との関わり

当社は、従業員の環境意識向上のため社内外のイベントを通して環境活動の重要性を伝えています。

### エコ活動事例発表会

当社では、毎年「エコ活動事例発表会」を実施し、各社で実施した省エネ、CO<sub>2</sub>排出量低減活動を共有しています。実施内容の効果の検証および全社展開、他設備への展開に役立っています。

今回は、OTICSの森づくりによる省エネ効果、洗浄液交換頻度の見直しによる産業廃棄物低減、LED照明の導入が発表されました。

洗浄液に関しては容器の容量を小さくすること、フィルターの交換も検討することが決まりました。

LED照明の導入はコストメリットも高いことが確認され、全社展開が決まりました。

### オティックスフェスタで環境コーナーを設置

オティックスフェスタでは地域の皆様と従業員とのコミュニケーションを推進しています。環境コーナーでは緑のカーテンコンテストや生物多様性絵本の作成を行っています。



生物多様性絵本作成コーナーの様子

## 地域との関わり

当社は、開かれた事業所を目指し、様々な取り組みを通して地域との共生に努めます。

### 地域コミュニケーション

当社では、自治体および地域の代表者にお越しいただき、会社概要、環境取り組み、工場見学、意見交換会を実施しています。地域の代表者からは、地域の環境活動のけん引役、雇用の増加についてご要望いただくとともに、エコレポートで未達成項目の内容について詳細を求められました。行政からは、苦情の有無について質問があり、過去に騒音に関する苦情がありましたが、発生抑制対策してからはないことを説明しました。



工場見学の様子

### 地域貢献活動

当社では、地域貢献活動として、災害時に技術本館を緊急避難所として提供すること、災害停電時に自家発電電力を提供すること、災害用備蓄品を提供することをお約束しています。また、技術本館周辺の植樹を通じて地域の緑化、オティックスフェスタなど地域住民参加イベントの開催を通して開かれた事業所を目指し、地域との共生に努めます。その他、年2回の工場近隣の美化活動に参加しています。



地域の美化活動への参加

## グループ概要

### 株式会社オティックス

〒444-0392 愛知県西尾市中畑町浜田下10番地  
TEL.0563-59-6481 FAX.0563-59-3325  
http://www.otics.co.jp

### グループデータ 2016年1月現在

創業：大正7年（1918年）  
資本金：303百万円  
売上高：517億円（国内）  
従業員：1,104名



## 会社沿革

- 1918年：小田井鉄工所  
発電機・綿織機の修理工場として創業
- 1931年：(株)豊田自動織機製作所と取引開始
- 1935年：工作機械の製作開始
- 1942年：トヨタ自動車工業(株)より旋盤受注
- 1943年：東海飛行機(株)よりオイルポンプ受注
- 1946年：トヨタ自動車工業(株)よりロッカーアーム受注  
これより自動車部品の取引開始
- 1949年：小田井鉄工(株)設立、トヨタ自動車協豊会  
(現協豊会)へ設立と同時に入会
- 1965年：豊田工機(株)と取引開始
- 1967年：平坂工場完成
- 1969年：高岡工場完成
- 1974年：寺津工場完成
- 1975年：ダイハツ工業(株)と取引開始
- 1979年：トヨタ品質管理賞優良賞受賞
- 1981年：江口工場完成、ヤンマー(株)と取引開始
- 1983年：トヨタ自動車(株)より専用工作機を受注
- 1991年：東京モーターショーに初出展  
資本金100百万円
- 1992年：社名を(株)オティックスに変更
- 1997年：富士重工(株)と取引開始  
P.T.OTICS Indonesia設立
- 1998年：ISO9001取得、幡豆工場完成  
いすゞ自動車(株)と取引開始
- 2000年：資本金303百万円
- 2001年：トヨタ技術開発賞受賞、ISO14001取得  
OTICS USA,Inc.設立
- 2002年：QS9000取得
- 2003年：トヨタ品質管理優秀賞受賞（2年連続受賞）
- 2004年：三菱自動車工業(株)と取引開始  
欧徳克斯机械工业(常熟)有限公司設立
- 2005年：製造部門を分社、トヨタ技術開発賞受賞
- 2006年：スバル開発車貢献賞受賞  
ISO/TS16949取得
- 2008年：スバル特別貢献賞受賞
- 2009年：トヨタ特別賞 5年連続品質管理優秀賞受賞  
トヨタ技術開発賞受賞（2年連続受賞）
- 2010年：いすゞ品質優良賞受賞（2年連続受賞）
- 2012年：OTICS (Thailand) Co.,Ltd.設立
- 2013年：いすゞ品質優良賞受賞、  
オティックス技術本館完成
- 2014年：トヨタ特別賞 10年連続品質管理優秀賞受賞  
ダイハツ特別賞 連続品質優秀賞受賞  
(7年連続受賞)
- 2015年：トヨタVA推進優秀賞受賞  
いすゞ品質優良賞受賞  
OTICSの森づくり技術本館にて実施

## お問い合わせ先

### 株式会社オティックスホールディングス

#### 総務部 ISO推進グループ

〒444-0392 愛知県西尾市中畑町浜田下10番地  
TEL.0563-59-6481 FAX.0563-59-3325

対象組織：国内グループ企業

対象期間：2015年2月～2016年1月 ※一部それ以外の報告を含む

発行：2016年6月（次回は2017年6月発行予定）